KAITEKI Value for Tomorrow

「KAITEKI」とは、「人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと」を表し、
社会そして地球の持続可能な発展に取り組むことを提案した
三菱ケミカルホールディングス（MCHC）グループオリジナルのコンセプトです。

このコンセプトのもと、サステナビリティ、イノベーション、経済効率性の3つの基軸を
一体的に実践する経営手法（KAITEKI経営）により、
MCHCグループは、社会価値と経済価値を持続的に両立させ、
企業価値（KAITEKI価値）の向上に取り組んでいます。

Mission
企業理念

人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくことをめざし、
Sustainability、Health、Comfortを価値基準として、
グローバルにイノベーション力を結集し、
ソリューションを提供していきます。

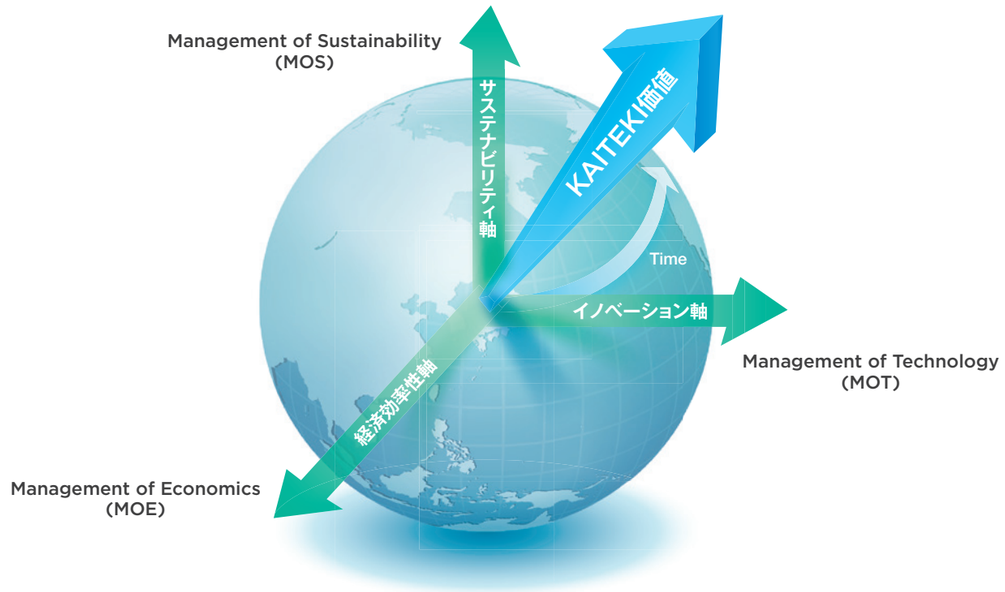
Vision
ビジョン

KAITEKI実現

Value
価値基準

Sustainability, Health, Comfort

KAITEKI経営



About Us P01 → Value Creation P11 → Strategy P17 → Management P47 → Performance P59 → Corporate Data / Information P85

01 企業理念･ビジョン
07 数字で見るMCHCグループ
08 MCHCグループの変遷
09 ポートフォリオ変革の軌跡

11 MCHCグループの価値創造アプローチ
- 11 社会課題を起点に価値創造サイクルを推進
- 13 MCHCグループのマテリアリティとフォーカス市場の選定プロセス

17 *APTSIS 20* 進捗報告
19 社長メッセージ
23 社長×投資家対談
27 CFOメッセージ
29 Innovation
- 29 CIOメッセージ
- 30 フォーカス市場における次世代事業の早期実現
- 31 MCHCグループのイノベーション事例

35 Sustainability
- 35 CSOメッセージ
- 37 KAITEKI拡がる循環型社会の実現に向けた取り組み
- 41 サステナビリティの進捗
- 45 KAITEKI健康経営と人材育成
- 45 CHOメッセージ

47 取締役紹介
49 コーポレートガバナンス
- 49 MCHCのコーポレートガバナンス
- 53 取締役会長メッセージ
- 55 社外取締役メッセージ
- 56 コンプライアンス
- 57 リスク管理

59 財務サマリー
61 財務ハイライト
63 非財務ハイライト
65 株主情報
67 分野別事業概況
- 67 フォーカス市場の成長施策と3分野のアクション進捗
- 69 サマリー
- 71 2018年度セグメント別実績
- 73 機能商品分野
- 77 素材分野
- 81 ヘルスケア分野

85 財務情報
- 85 財政状態および経営成績の分析
- 89 連結財務諸表

95 非財務情報
- 95 環境性データ/社会性データ
- 96 独立した第三者保証報告書

97 会社情報
98 主要な子会社･関連会社
99 主要な事業
100 グローバルネットワーク

編集方針 三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループは、ビジョンと位置付けているKAITEKI実現に向けた企業活動の進捗や見通しのうち、企業活動の判断基準やマテリアリティ・アセスメントの結果に照らして重要性が高いと考える事項に基づき、過去・現在・未来の財務情報と非財務情報を価値創造ストーリーとして統合的にわかりやすくまとめた統合報告書「KAITEKIレポート」を発行しています。作成にあたっては、国際統合報告評議会の「国際統合報告フレームワーク」を参照しています。より詳細な情報は、MCHCのウェブサイトにて報告していますので、併せてご覧ください。
また、詳細な財務情報については、金融庁に提出した有価証券報告書にて、詳細なガバナンス情報については、東京証券取引所に提出したコーポレートガバナンス報告書にてそれぞれご覧いただけます。

報告対象期間 2018年度(2018年4月−2019年3月)一部2019年度の内容も含んでいます。

報告範囲 MCHCおよびMCHCグループを報告範囲としています。
報告範囲が異なる事項については、対象となる報告範囲を明記しています。

会計基準 MCHCは、2017年3月期の第1四半期より指定国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。本レポートでの2017年3月期以降はIFRSに基づき、その他数値は、特に記載がない限り日本基準に基づくものです。

■有価証券報告書
http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/library/stock_securities_report.html

■コーポレートガバナンス報告書
http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/pdf/governance.pdf

ESG企業価値評価実績

Dow Jones Sustainability Indices — MEMBER OF Dow Jones Sustainability Indices In Collaboration with RobecoSAM

MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数※ — MSCI 2019 Constituent MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数

MSCI 日本株女性活躍指数※ — MSCI 2019 Constituent MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)

FTSE Blossom Japan Index — FTSE Blossom Japan

FTSE4Good Index — FTSE4Good

(2019年6月末時点)

※ MCHCのMSCI指数への組み入れ、および本ページにおけるMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による当社の後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

Innovation

イノベーションサイクルを加速させ、
新たな市場の“トビラ”を開く

→ P29

CIOメッセージ → P29

フォーカス市場における次世代事業の早期実現 → P30

MCHCグループのイノベーション事例 → P31

Sustainability

社会課題を起点に価値を創出し、
最適な循環型社会の実現へ

→ P35

CSOメッセージ → P35

KAITEKI拡がる → P37
循環型社会の実現に向けた取り組み

サステナビリティの進捗 → P41

KAITEKI健康経営と人材育成 → P45

CHOメッセージ → P45

数字で見るMCHCグループ (2019年3月末現在)

INPUT

資産合計
5兆5,725億円

設備投資額
2,317億円

研究開発費
1,438億円

連結従業員数
72,020名

グループ拠点
(所在国・地域数)
41カ国・地域

エネルギー消費量
39.1TWh

取水量(海水含まず)
188.8百万m³

OUTPUT

売上収益
3兆9,234億円

コア営業利益※
3,172億円

海外売上収益比率
42.4%

ROE
(親会社所有者帰属持分当期利益率)
12.7%

R&D指標
(新商品化率)
136%

製品を通じた
温室効果ガス削減貢献量
74.9百万tCO_2e
気候変動への対応

再活用水提供量
(生活・産業用途に利用可能な水)
5.6億トン
水の有効利用

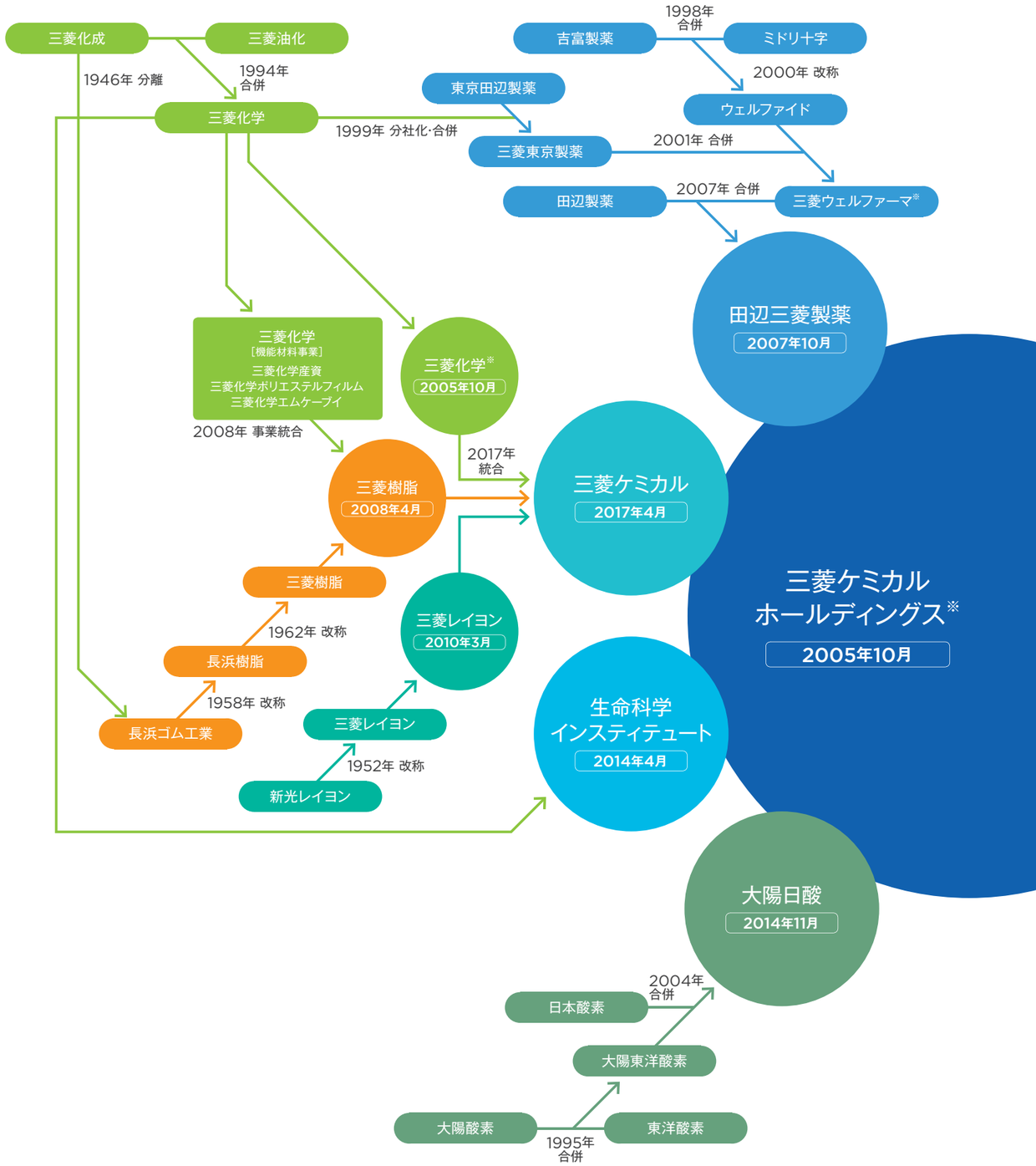
従業員の
いきいき活力指数
71.1ポイント
創造性と生産性の向上

OUTCOME

経済価値・
社会価値の創出を
通じて
KAITEKI価値
を向上

※コア営業利益：指定国際会計基準(IFRS)の営業利益に含まれる非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いた損益で、日本基準の営業利益との比較可能性も加味した、当社独自の段階損益として開示しています。

MCHCグループの変遷



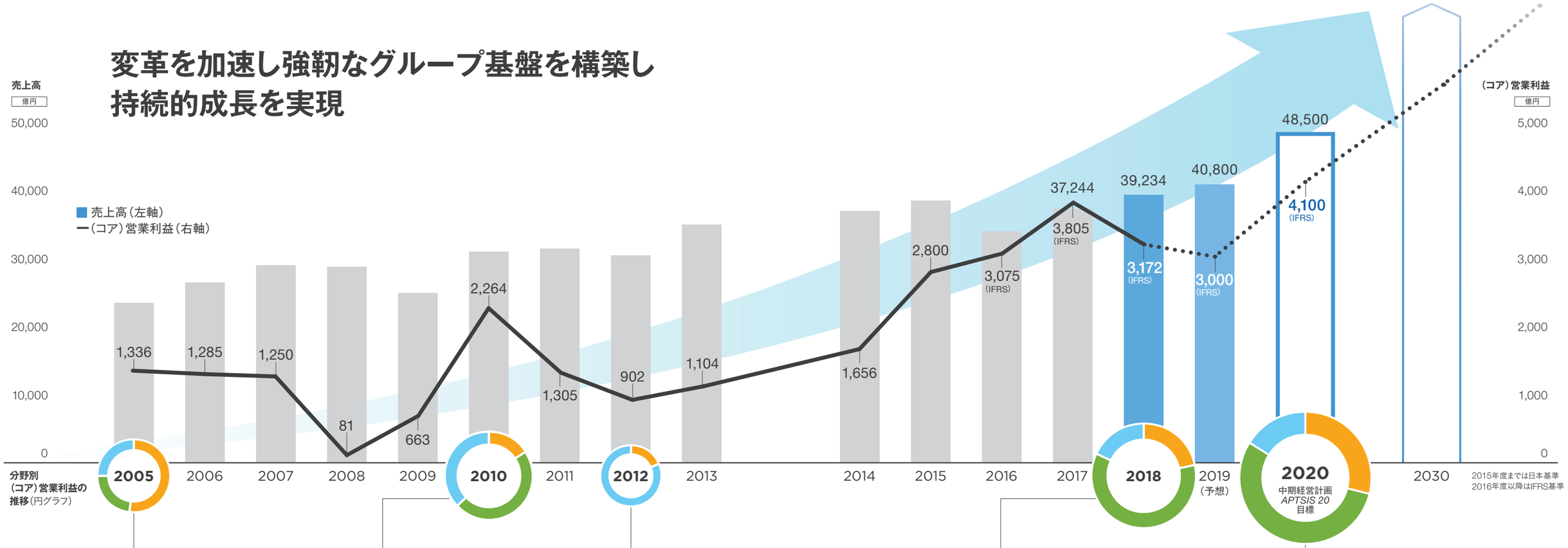
※三菱化学と三菱ウェルファーマが共同持株会社 三菱ケミカルホールディングスを設立

M&A･統合による企業規模の追求、不採算事業の構造改革

機能商品、素材、
ヘルスケア分野の事業を通じて、
高成長･高収益型の企業グループをめざす

社会の潮流と
ステークホルダーの要請を
視野に、価値創造サイクルを
推進して持続的に成長
＝ KAITEKI実現

変革を加速し強靭なグループ基盤を構築し持続的成長を実現



分野別（コア）営業利益の推移（円グラフ）

	機能商品分野	素材分野	ヘルスケア分野
2005	52%	23%	25%
2010	16%	47%	37%
2012	19%	0%	83%
2017	22%	61%	18%
2020	29%	55%	16%

※その他 △2%

※その他 △1%

三菱ケミカルホールディングス設立 → 素材分野の市況好調 ヘルスケア分野強化による収益安定 → ポートフォリオ変革の加速 → 素材分野の基盤強化と成長分野への投資 → 機能商品分野の成長加速、素材分野の収益安定などにより各分野で持続的成長

医薬事業の比率を高め、景気変動に左右されにくい収益構造へ

2005年10月 三菱ケミカルホールディングス設立

医薬事業の強化

2007年10月 田辺三菱製薬発足

機能商品分野の拡大

2008年4月 三菱樹脂、三菱化学の機能材料事業･関連会社(3社)を統合

2009年5月 高機能エンジニアリングプラスチック事業のQuadrant AG連結子会社化

高付加価値事業にポートフォリオをシフト

2010年3月 三菱レイヨン 連結子会社化

2010年5月 ナイロンチェーン事業撤退

2011年3月 塩ビチェーン･SMチェーン事業撤退

2013年3月 日米欧を拠点とするカプセル･製剤機器事業のクオリカプス連結子会社化

産業ガス事業連結化による素材事業の収益安定化

2014年3月 ポリオレフィン生産最適化（−2015年3月）

4月 生命科学インスティテュート設立

5月 鹿島(現茨城)ナフサクラッカー1基化(1基削減)

11月 大陽日酸 連結子会社化

2016年4月 水島(現岡山)ナフサクラッカーJVで統合

7月 テレフタル酸インド･中国事業株式譲渡を決定

統合による機能商品群の成長加速

2017年4月 三菱ケミカル発足 化学系3事業会社統合（三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨン）

基礎素材の基盤強化と成長分野への投資

2018年4月 中東MMA新プラント（The Saudi Methacrylates Company）本格稼働

10月 欧米半導体事業のCleanpart Group GmbHを買収

12月／2019年3月 M&Aによる産業ガス事業のグローバルシェア拡大